



ふろうせんかん
不老仙館
(東和)

不老仙館は、狼河原村(現米川地区)に嘉永5年(1852)、伊達家十三代慶邦氏が北部巡視時の宿泊用に建築したものと伝えられています。その建物を明治39年、佐藤家三代新助氏が凶作による米谷住民の救済事業として買い受け、3年間の歳月をかけて現在地に移築しました。床面積は330平方メートル、部屋は1階が8室、2階が4室あり、1階には武者隠しもあります。長く佐藤家別荘として使用されてきましたが、昭和56年に東和町へ寄贈され、現在は民俗資料館として一般に公開されています。

【所在地】〒987-0902 東和町米谷字仙荷65番地 【開館時間】午前10時～午後3時
【休館日】毎週月曜日 【問い合わせ】米谷公民館 ☎ 0220 (53) 2006

最初に建てられた狼河原村は、「おいぬがわら」とも呼ばれていました。これは語呂が合うことと、年を取らないという縁起をかけたもので、不老仙館の名前はその「おいぬ」を「不老」に当て付けられました。館内には、著名人の書画や骨董品などが約50点展示されているほか、日本庭園には茶室や阿部みどり女の句碑などもあります。コンサートや茶会などにも年に数回催され、市内外から多くの方が訪れています。

歴史博物館

広報ミニ展示室 15
=街頭紙芝居資料=

昭和30年代に流行した街頭紙芝居は、昭和時代の大衆娯楽・仕事などを知る貴重な資料の一つになっています。登米市での紙芝居上演は早く、東京の映画館で下回りや幻灯紙芝居の経験を持つ清野一男さん(登米町)が、戦前に街頭紙芝居を佐沼で上演し、「いろは会画劇配給所」を置いたことに始まります。戦後はすぐに現金収入を得られることから、紙芝居は人気の商売となり、市内にも多いときには20人程の街頭紙芝居師がいたことが分かっています。また、満州にも画劇社(紙芝居会社)があったことや、紙芝居師の組織形態などが次第に分かってきており、今後の調査が楽しい資料です。



街頭紙芝居上演の様子
(提供:清野一男さん【戦時中】)

佐沼夏祭り

7/21(土)
・22(日)

会場: 追町佐沼一市、大通り商店街、中江中央公園など

■イベント内容

【7/21 中江中央公園】

◎獣拳戦隊ゲキレンジャーショー(第1部14:00～第2部17:00～) ◎バンド演奏(14:30～) ◎縁起もちまき(17:40～) ◎大抽選会(19:15～) など

【7/21 八日町】

◎演芸(19:00～)

【7/22 一市、大通り商店街】

◎山車おはやし大競演(10:30～) ◎ちびっこみこし大行進(12:50～) ◎おいとこロック(17:30～) ◎山車・大絵灯ろう5台運行・手踊りパレード(18:00～) など

【7/22 中江中央公園】

◎フリーマーケット(10:00～) ◎よさこい大競演(10:30～)

【7/22 鹿ヶ城・佐沼大橋付近迫川河畔】

◎灯ろう流し(19:00～) ◎花火大会(19:50～)

■問い合わせ

登米中央商工会 ☎ 0220(22)3681

このほかにも楽しい
イベントが盛りだくさん!